

平成 22 年 1 2 月 2 5 日

22 年度合同運営推進会議議事録

記録 田名部

参加者

保健福祉課課長	與田様
保健福祉課係長	笠原様
緑町町内会長	首藤様
緑町町内会副会長	松木様
鳴川ご家族	大堂様 時兼様 前田様
緑町ご家族	阿部様 中島様 宮腰様
おおぬまご家族	平井様 藤野様

スタッフ 中村 久貴谷 吉田 田名部

中村～今年一年間を振り返り、皆様に御支援を頂き、ありがとうございました。

私どもでは今年の 2 月に、本町に若年性認知症対応型と学童保育が併設する共生型施設を新たに開設いたしました。

最近の新聞をみると、介護保険が平成 1 8 年に法令改正になり、次の法令改正では、高齢者が暮らし良い介護保険制度になるのではないかとされています。しかし、それに伴い、自己負担を 2 割にするとか、また市町村の介護保険料を上げるような話もあり、24 年度の法令改正が、高齢者にとってかなり厳しい時期になってきたかと思えます。消費税を上げ、年金もそうですが、社会保障をもっと充実させ、皆様が使いやすいようなサービスができればと思います。クループホーム協会としても、皆様が現状のまま利用できるよう、自己負担が増えないよう、国に要望書を提示し訴えていっています。25 年度に 2 割との打ち出しがありますが、私共としては、料金を下げるのではなく、今の現状の中で 2 割をクリアできるよう料金設定を見直し、値段を上げずに、できる範囲で行っていこうと思っています。利用料を一気に上げるようなことは致しませんのでご安心下さい。

もう一つお伝えしたいのが、地域密着ということで、地域作りをと思い七飯町と相談し、認知症の方だけではなく、町民が安心して暮らせる街ということで、7 月 1 2 日に SOS ネットワーク・徘徊模擬訓練を行政に呼びかけ開催し 2 6 0 名の参加を頂きました。それが今まだ止まっている状態に不安を覚えており、地域やご家族様に趣旨が浸透しているか疑問だったので、七飯町・森・北斗・函館市の包括に働きかけ、七飯町共催で 1 2 月 5 日に 4 人の講師の方をお招きし「安心して暮らせる福祉の町づくり」の勉強会を行い、5 3 0 名の方の参加を得られました。また、函館新聞

にも大きく取り上げていただき、たくさんの方がみてくださり、こういう取り組みはいいねとのご意見も多く伺いました。ただ、行政にも協力をお願いし、地域づくりをやってきてはいるのですが、いま一つ浸透していないように思います。来年度は七飯町に住んでよかったな、こういうものがあつたら七飯町で安心して長く暮らせるなどいうものを運営推進会議の題材として取り上げていきたいと考えております。

七飯町でも、高齢化率が26・数%7500人前後だったのが、27%近くまできています。高齢者だから、施設に入っているから、在宅だからということではなく、明日は我が身だと考えなければいけないと思います。ご自分の年金等で賄え、施設を利用できているのは、はほんの一握りです。今後利用できるだけの年金を払える方がいらっしゃるかどうかわかりませんが、サービスを使いたくても使えない方がどれだけいるのか、どこに独り暮らしの方がいるのか、どれだけ要介護度の認定を受けている方がいるのかわからないといった状況では手を差し伸べることもできません。先日、テレビで、ある地域での行政の取組みが放送されていました。民生委員だと入って行きづらいところがあり、行政主導で一軒一軒、高齢者宅を回り、一人一人の状況を把握し、データ化して、介護予防や、介護度を上げないように、その方にあつた支援ができるように、地域や事業所等の専門機関と連携し、取り組んでいるそうです。市だからできる、町だからできないということではなく、民間でできることはもちろん民間でやらなければなりません。行政はもっと前向きに自分達でできることを発信して、民間の協力を仰ぐ必要があると思います。来年度は、そういう働きかけをもっとしていこうと思っています。また、市や町だけに頼るのではなく、町民の方に幅広く知ってもらい、その中心となって行政に動いてもらう。そして、行政ができない部分を、私たち民間が皆様にわかるように、きちんと説明していけるようなチームアプローチをしていければと思います。「誰もが住み続けたい、安心・安全の町づくり」とよくいわれますが、皆様にとっての安心・安全・住み続けたい町を、自分たちが高齢者になる前に皆様のお力を借りて作っていくため、話し合っていきたいと思います。頼れない国や行政まかせの時代ではなく、自分たちが「住んでよかった」と思える町を、自分たちで作っていく。誰もが自然に声を掛け合っていけるような町づくりをしていきたいと思ひます。そこで、今日は、皆様が考える町についてお聞かせいただきたいと思ひます。

首藤様～11月だけで3名の方が亡くなっているが、新聞にも載らず、知らない間に葬儀も終わりました。人との繋がりや薄さを感じています。近所同士の連携をとって地域でどのように支えていくかが課題です。今年はハッピーダウンⅡでの食事会に3回お招きいただきました。町内会の催しにも参加してくれて、行ったり来たりして来年もハッピーさんとの相互で交流の機会を作り絆を深めて行きたいです。

松木様～お互いに助け合えるようにするにはどうしたらいいか。役場や社協とも連携を取り、地域でも、近所同士どうしているか声掛けを心掛けている。緑町では高齢者率は33%と高く、町内会が行っている温泉バスサービスの参加登録が15～6名しかいない。もっと活性化させるためにも、民生委員、ケアマネ等の情報をもらい地域でも支える体制を作っていきたい。

平井様～大沼の町内会さんには、ホームにも協力して頂き感謝しています。万が一の火災のときにも駆けつけると言ってくくださり、家族としては安心して思ひます。

中 村～札幌のグループホームの火災は大事件でした。私どもの全事業所も12月30日にスプリンクラーの入札を行い3月頃には設置できると思います。だからと言ってそれで安心しとはかぎりません。

藤野様～うちの近くにもグループホームがありますが、ここの地域の方を見て、私も火災等の時には駆けつけるといった協力をしないと、と言った気持ちが生まれました。いつも、勉強になります。

中島様～うちの親はここに入所して元気になり安心しています。私の方が一人暮らしなので本当に自分の将来が心配です。家族から近所、近所から地域と助け合う輪が広がっていけば良いですね。

宮腰様～函館に住んでいますが住民も少なくなり、町内会の役員のなり手がいない。若い人は興味もない。空き家も多くなってきて、近所同士の声掛けが難しい。でも、こちらが勉強して、黙っていないで声を掛けて行こうと思う。

阿部様～うちの母がハッピーさんでお世話になっていますが、入所する前、家に戻れなく行方不明になったりしていました。新聞配達の方やタクシーの方、近所の方に助けられていました。SOSネットワークのようなものがあればと思っていたのが、実現されて嬉しいです。困った事、思った事を発信していくのも大事な事と思いました。幼稚園、保育所等がお年寄りと同じ事業所の中にあるのをテレビで見ましたが、そういった施設があればいいですね。

中 村～ハッピーでは本町に共生型を作りました。ぜひ、見学に来てください。

前田様～母はホームに入り元気になり良かったです。お年寄りは一人暮らしになるとなかなか外に出る機会もなくなると思います。近所の方に色々お誘いをしたり、声を掛け合って実行して行きたいと思います。

時兼様～この前、町内会の行事に参加しました。それまで誰だかもわからなかったのですが、参加してみて町内の事がわかってきました。

遠藤様～北斗市に住んでいるのですが、北斗の子供たちは会えば誰もが挨拶しています。挨拶から人との繋がりができるので、この子らは思いやりのある大人になってくれるのではと思う。大人も子供もこれからの事を考えていかないと、と思います。

笠原様～七飯町は16%の方しか介護保険を使っていない。サービスがあるということを高齢者に理解されているのかわからない。家族やいろんな方からの意見を聞き来年度に反映させていきたい。

與田様～人それぞれ考え方に違いはあるが「あずましい」と言った感情は皆同じだと思います。最近「あずましい」が聞かれなくなりました。個人情報や盾に関りを拒み、困った時だけ頼ってくる、といった世の中では「あずましい」とは懸け離れていると思います。私は4月より介護保険福祉課に就きましたが、はじめは何がなんだか分かりませんでした。7月のSOS徘徊模擬訓練の時の中村社長の言われている、「声掛け運動」が今になって理解できるようになりました。町内会だけでなくいろんな組織の話し合いに参加させていただき、町として意見を聞き、取り組んでいきたい。全ての方が満足いくような形にはならなくても、より多くの方が満足できるように、前向きに検討し福祉を充実させて行きたいと思っています。批判でもいいので聞かせていただき、それを糧として頑張っていく所存です。

中 村～運営推進会議にいつも町内会の方ばかりお呼びしていましたが、これからはいろん

な組織の方にも参加していただき、横の繋がり連携を取っていきたいと思います。
住み続けたい町づくりの理解の輪を広げて行き、未来の礎を築ければと思っています。
今後ともよろしく願いいたします。
本日はありがとうございました。